

ティラド

熱交換器の生産能力増強

低燃費化や電動化対応 生産効率化にも投資

ティラドは、低燃費化や電動化に対応する熱交換器の生産能力を増強する。19年にインバータ冷却器の量産を開始するのに加え、モーターや無段変速機(CVT)用のオイルクーラー、EGR(排出ガス再循環)クーラーの生産能力を、電動車両の普及の本格化が見込まれる2021年度に向けて段階的に引き上げる。生産効率を向上する設備投資も積極化、グループ会社で開発を進める製造業向けクラウド業務管理システムを各拠点に導入する。

同社は車両の電動化や低燃費化で、オイルクーラー、EGRクーラー、インバーター冷却器の需要が本格化すると見ており、今年度からの4カ年中期経営計画「T・RAD-11」でもこれらを成長戦略として位置づける。19年に量産開始するインバータ冷却器は、独自のコア構造を採用し、「世界最高レベルの冷却性能を実現した」と同社。高付加価値製品と1100万台に引き上げる。同社は車両の電動化や低燃費化で、オイルクーラー、EGRクーラー、インバーター冷却器の需要が本格化すると見ており、今年度からの4カ年中期経営計画「T・RAD-11」でもこれらを成長戦略として位置づける。19年に量産開始するインバータ冷却器は、独自のコア構造を採用し、「世界最高レベルの冷却性能を実現した」と同社。高付加価値製品と1100万台に引き上げる。

して自動車メーカーに売り込み、21年度までに年産100万台規模の事業に育成する。また、同社は、高性能フィンの採用で冷却性能と重量を10%以上改良したオイルクーラーを開発し、現在は日本、中国、北米向けに生産している。20年をめどに欧州と東南アジアで需要拡大が見込まれることから21年度までに生産能力を17年度比70%増の年間1100万台に引き上げる。

既存のヘッダレス構造と比べて部品点数の削減とコストダウンを実現した新型EGRクーラーは、量産している日本に加えて今秋に北米でも量産する。21年度にはEGRクーラーの売り上げを17年度比6割伸ばす計画。

成長戦略製品の生産能力増強とともに、生産性向上にも積極的に投資する。生産性を改善する業務管理システムを用のギアやケースは造ってい

たが完成品を製造するのは同社として初めて。投資額は約115億円で、2019年11月に生産を始めると発表した。これまでATトマチックトランスマッシュション(AT)ユニットを生産する。生産台数は年40万台。ATの生産能力を年1320万台に引き上げる計画。

現在、吉良工場の建屋面積

開発し、各拠点に導入する。旅館業向け業務管理システムを開発するティラドの大株主である陣屋の子会社と4月に設立した合弁会社のティラド

成比で約5割を占める主力のラジエーターの拡販に加え、成長戦略製品を中心受注を開拓し、持続的な成長につなげる。

増)を目標に掲げる。売上構成比で約5割を占める主力のラジエーターの拡販に加え、成長戦略製品を中心受注を開拓し、持続的な成長につなげる。

テムを開発しており、開発したシステムを導入することで「業務の50%を省力化する見込み」(同社)。

同社は新しい中期経営計画で売上高1460億円(17年度実績比17・3%増)、経常利益105億円(同64・1%

ATユニット生産

アイシン・エーアイ 吉良工場を拡張

アイシン精機子会社のアイシン・エーアイは、マニュアルトランスマッシュション(MT)を製造する吉良工場(同)を拡張し、新たにオートマチックトランスマッシュション(AT)ユニットを生産することを発表した。これまでAT

佐鳥SPテクノロジ(古賀正彦社長、東京都港区)の発行済株式の15%をパナソニックに譲渡する。

佐鳥SPテクノロジは、ス

トレージ製品の開発や販売を手がける佐鳥電機の完全子会社。提携によって半導体の調達で相互協力するとともに、事業面での関係強化も図る。株式譲渡は7月30日の予定。

パナソニックと資本業務提携

佐鳥電機

**一品
QN対応**

アズジエント(杉本
隆社長、東

コネクトが製造業向けのシステムを開発しており、開発したシステムを導入することで新たに増築する面積は1万3462平方メートル。19年5月に建

屋を完成し、同年6月から設備を導入した後、同年11月に前輪駆動(FF)用8速ATユニットを生産する。